

2026年8月30日(日)

日本基督教団 大宮教会
大宮教会ビジョン
「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
(マタイによる福音書 28 : 19~20)

聖霊降臨節第 15 主日

朝第 1 礼拝 9:00~10:00

朝第 2 礼拝 10:30~11:45

＜神の招き＞

前 奏 ① 天にいます我らの父よ6 プレトリウス
② 天にいます我らの父よ ブクステフーデ

招きの詞 エフェソの信徒への手紙 2:17~18

交読詩編 62 : 1~13

讃美歌 15

＜神の言葉＞

聖 書 出エジプト記 24 : 1~8
(旧約 聖書協会共同訳 123 頁)
ヘブライ人への手紙 9 : 15~28
(新約 聖書協会共同訳 401 頁)

祈 禱

新生児祝福式②

讃美歌 53

説 教 「救いをもたらすために」

熊江秀一牧師

祈 禱

黙 想

讃美歌 303

＜神への応答＞

使徒信条

献 金

主の祈り

宣教報告②

頌 栄 28

派遣と祝福

後 奏

① 神を賛美

カウフマン

② 我が愛する神に

ハンフ

宣教報告①

今週の御言葉

キリストもまた、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、救いをもたらすために、ご自分を待ち望んでいる人々に現れてくださるのです。

(ヘブライ人への手紙 9 : 28)

サテライトチャーチ植竹礼拝 10:30~11:30

夕 礼 拝 18:00~19:00

＜神の招き＞

前 奏 わたしの愛する神に クレプス

招きの詞 エフェソの信徒への手紙 2:17~18

交読詩編 62 : 1~13

讃美歌 122

＜神の言葉＞

聖 書 哀歌 3 : 19~24

(旧約 聖書協会共同訳 1272 頁)

ローマの信徒への手紙 15 : 13

(新約 聖書協会共同訳 290 頁)

祈 禱

讃美歌 417

説 教 「希望こそまことの平和」

佐藤潤伝道師

祈 禱

黙 想

讃美歌 578

＜神への応答＞

使徒信条

献 金

主の祈り

宣教報告

頌 栄 25

派遣と祝福

後 奏

モデラート イ短調

グッドウイン

ワースhip (賛美礼拝) 14:00~15:00

説教「命のパン」熊江秀一牧師

ヨハネによる福音書 6:34~35

賛美：恵みと平安、ここから、主イエスの十字架の血で、感謝の心、主イエス神の愛、主の祈り、花も、Peace of Christ

次週の礼拝(9月6日) 聖餐式

① 9:00、② 10:30

説教「献げられた主の体」

熊江秀一牧師

詩編 40 : 1~12、

ヘブライ人への手紙 10 : 1~18

交読詩編 119 : 73~80

讃美歌 18、54、513、81、29

☒ 18:00

説教「神の栄光が現れる」

佐藤潤伝道師

出エジプト記 17 : 8~16、

ルカによる福音書 9 : 37~45

交読詩編 119 : 73~80

讃美歌 127、288、525、81、26

礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。☒は祈祷当番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、☒は夕礼拝。

■**今週の祈禱課題**■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 熊本地震と東日本大震災、能登半島地震、千葉豪雨の被災者の為に
3. 9月の宣教の為に
4. 長老会の為に
5. 関連幼稚園（大宮、植竹、白百合）の為に
6. 関東教区と埼玉地区の為に
7. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、イラン、世界の平和の為に
8. 病気の兄妹の為に

***関東教区お祈りカレンダー** 足利東教会 佐野教会 鹿沼教会

◇先週の説教より「互いに従う」エフェソの信徒への手紙5章22～33節、創世記2章15～25節

佐藤潤伝道師

「互いに従いなさい」と勧められている。この勧めは、キリストによって与えられている救いの事実が土台にある。キリスト者は、神の恵みによって選ばれ、キリストの十字架によって罪赦され、神の子とされ、キリストの体である教会に結ばれている。この救いの恵みに応えて歩む信仰生活が、「キリストに対して畏れをもって、互いに従う」という新しい生き方である。当時の社会では、夫から妻、親から子、主人から奴隷という支配関係が当然とされていた。しかしこの手紙では、まず妻、子、奴隷に語り、その後、夫、親、主人の責任を語る。これは従来の支配関係を問い直し、キリストにあって「互いに従う」新しい人間関係を示している。夫婦関係は、「キリストは頭であり、教会はキリストの体である」という一体性に基づいている。夫の「頭」としての役割は支配ではない。キリストが教会を愛し、ご自身を献げ、養い、守られるように、夫も妻のために自分を献げ、妻が神の前に豊かに生きることを願う

責任を負う。一方、妻が夫に従うことも強制的な服従ではなく、教会がキリストの愛を信頼して従うように、キリストへの信仰に基づく応答である。創世記の「二人は一体となる」という言葉は、夫婦の結びつきではなく、「キリストと教会」の一致という神の「偉大なる秘義」を指し示している。結婚は、単なる二人の幸福のためだけではなく、「キリストと教会」の一致をこの世に目に見える形で証しする場である。現代社会の夫婦関係は対等な関係が重視されている。しかし、「自己責任」によって苦しみを一人で抱え込む危険もある。キリスト者の夫婦は、「自己責任」ではなく「キリストへの信仰」を土台として、互いに愛し、従う者とされている。夫婦が互いに愛し、忍耐して従う生活そのものが、「キリストと教会」の一致という神の国の福音を証しする信仰生活となる。